

もっと知りたい!!

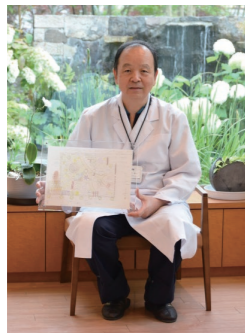
FILE 03

病院のこと・先生のこと。

医療法人十全会
岩崎医院

内科・呼吸器内科・循環器内科・脳外科

〒766-0002 香川県仲多度郡琴平町283
TEL 0877-75-5161



岩崎医院 院長
森田敏郎 先生

▼ 当院に期待すること

病診連携をますます発展させて欲しい。呼吸器内科の増員をしてほしい。

どっち?

| | | |
|-----|-------|--------|
| 朝食は | 犬派 | 猫派 |
| 休日は | 和食 | 洋食 |
| | インドア派 | アウトドア派 |

好きなもの(こと) Best3!

- 1 ガーデニング
- 2 読書
- 3 旅行

フリースペース

庭作りが好きで、医院の庭も自分で設計しました。待合いから見るところに滝を設置しています。水の音で癒されます。庭作りでお悩みの方はどうぞ。



ガーデン設計図も先生が描きました!



お庭の中の森田先生

▼ 病院のココが自慢!

スタッフがやさしくて、患者さんに寄り添っているところ。

▼ 患者さんと接する時に大切にしていることは?

悩みをよく聞きだすよう努めています。

▼ 医師になろうと思ったきっかけは?

がんのしくみに興味があり、解明したかった。

▼ もし、医師になっていなかったら?

外国船の船長

▼ 先生が実施している健康法は?

ウォーキング



独立行政法人 国立病院機構

四国子どもとおとなの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1 TEL 0877-62-1000

https://shikoku-mc.hosp.go.jp

交通機関 ▼善通寺ICより車で5分

▼JR土讃線善通寺駅下車徒歩25分

四国子どもとおとな



K O I F U M I

こ い っ も

ふれあう医療を

みなさんと

2023.07
vol.03

独立行政法人 国立病院機構

Shikoku Medical Center for Children and Adults® 四国子どもとおとなの医療センター https://shikoku-mc.hosp.go.jp

2023年後半に向かって

四国子どもとおとなの医療センター 院長 横田 一郎

2023年も、はや半年が過ぎました。年初に猛威を振るっていたコロナの第8波も、5類に移行してからは大きな流行が起こる兆しはまだ見られていませんが、感染抗体をもつ人の割合が低い日本では、まだ数回の波が予想されており、嵐の前の静けさとも言えます。そのような中ですが、コロナ以前の日常を取り戻す動きも増えていきます。当院も、7月22日(土)に3年ぶりとなる市民公開講座を行う予定で、地域連携報告会も今年度は是非開催させていただきたいと思っています。また、11月には病院機能評価の更新審査受審のための準備を進めており、病院の品質をより向上させたいと思います。

地域医療支援病院の承認を受けてからもうすぐ2年となります。先生方からご紹介いただく患者さんも以前に増して増え、紹介率、逆紹介率も順調に上昇し、昨年度は救急搬送受入も3,525人まで回復して参りました。医師不足の中、まだまだ不十分な診療機能でお叱りを受けることも多々あるかと思いますが、地域の病院として皆さまと共にこの地の医療を守るために努力して参ります。当院の診療内容の紹介、地域の皆さまへの研修会、連携医療機関の先生へのインタビューなど、こまれば通信共々、診療の合間にお目を通していただけたら幸いです。

今後の新型コロナウイルス感染対策の考え方

四国子どもとおとなの医療センター 感染制御対策部長 寺田 一也

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで、「新型コロナウイルス感染症(いわゆる2類相当)」としていましたが、令和5年5月8日から「5類感染症」になりました。法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとした対応に変わりました。基本的感染対策の考え方については以下の内容が基本となります。

① マスクの着用
個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とします。

○周囲の方に、感染を広げないために医療機関・高齢者施設などを受診、訪問する時、通勤ラッシュなど混雑した電車・バスに乗車する時。

○各自の感染から守るために、重症化リスクの高い方(高齢者、基礎疾患を有する方、妊婦など)が混雑した場所に行く時。

○感染症の症状がある場合

② 手洗い等の手指衛生

③ 換気、「三つの密」の回避、「人と人との距離の確保」

○「密閉」; 空気の流れがない密閉空間ではウイルスが浮遊し続けるため、感染の恐れがあります。こまめな換気が必要不可欠です。

○「密集」; 人が密集することによってウイルスが蔓延する可能性があり、感染対策の面でマイナスです。日頃からソーシャルディスタンスを確保することが大切で、他の人とはできるだけ2m間隔を空けるよう意識しましょう。

○「密接」; 密接することにより、ウイルスを吸い込む可能性が大きく上がり感染症の感染経路となる可能性が高まります。

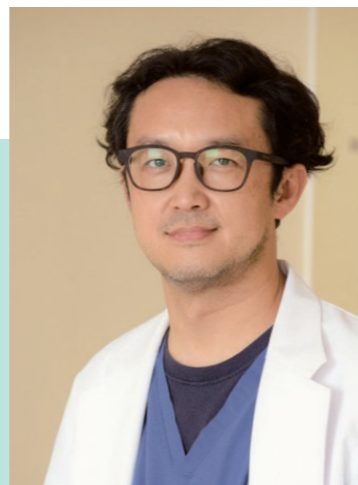
新型コロナウイルス感染症はこれまで、すべての患者と把握する「全数把握」でしたが、5類感染症となり、指定した医療機関において1週間に診断した患者数を把握する「定点把握」へ変更となり月曜から日曜日までの集計を5日後の金曜日に発表することになっています。

新型コロナウイルス感染に関する報道は減ってきていますが、感染の発生は依然続いているので各個人の感染対策は継続していただければ幸いです。

新生児科

赤ちゃんとそのご家族に
やさしい医療を提供します

四国こどもとおとなの医療センター
新生児内科医長 久保井 徹



地域の先生方には、いつもお世話になっております。2013年の開院以来、おかげさまで当科の入院数は増え続け、昨年はコロナ禍にもかかわらず過去最高となりました。このうち新生児搬送に関しては開院時の半数以下に減っており、地域の先生方が母体搬送を増やして下さった賜物だと考えております。不要な母子分離を避けて安心できる医療を患者さまに提供できているのも、ひとえに地域の先生方のおかげです。心より厚く御礼申し上げます。

とは言いまでも、分娩は常にリスクと隣り合わせです。新生児仮死、呼吸障害はもちろん、予測できない早産や低出生体重児をはじめ、難治性の低血糖やなんとなく元気がない、などといった症状を認める際は、遠慮なく当院へ新生児搬送を依頼して下さい。直ちに新生児専用の救急車でお迎えに上がり、NICU入院前から治療を開始し後遺症なき生存を目指します。

ここ最近ではCOVID-19の対応に迫られた数年でした。母体陽性者、濃厚接触者、後日陽性者を含むCOVID-19対応をした分娩は、2022年1月から2023年2月までに経膈分娩44例、帝王切開6例の計50例で、そのすべてに新生児科医が立ち会いました。その甲斐あってか、母体から児への水平感染を来した症例は認めませんでした。2023年5月からは感染状況をみながら対応を緩和していく予定です。地域の

先生方の中には、COVID-19対応の分娩を始めようと考えていらっしゃる先生もおられるかと思えます。その際に頭を悩ませる新生児管理についても、是非ご相談下さい。

また、外来や地域の健診の場などで発達が気になる児や先天異常を持つ児、医療的ケアが必要な児がいらっしゃるようであれば、是非我々にご紹介下さい。ご紹介頂く専門科が不明な場合には、我々が窓口となり責任を持って関係各所に繋げていきますので、安心してご紹介頂ければと思います。

さいごに、我々は、生まれてくるすべての児が長く生きていくだけでなく、家族と幸せに暮らすことができるようなサポートをしていかななくてはならないと考えています。そのためには、地域の先生方のご協力が必要です。未熟な赤ちゃん和我々をこれからもご指導・ご支援賜りますようお願い申し上げます。



整形外科

地域や四国内の痛み診療体制の充実と
連携体制の構築を目指して

四国こどもとおとなの医療センター
疼痛医療センター科長
リハビリテーション科医長 川崎 元敬



平素から大変お世話になっております。

当院の疼痛医療センターで痛みの診療をしております川崎元敬と申します。前職の高知大学附属病院整形外科では14年にわたり骨軟部腫瘍外科医のチーフとして診療に取り組むかたわら、厚生労働省慢性の痛み政策研究事業のもと、慢性疼痛診療に携わりながら、院内の緩和ケア診療にも従事して培ってきた痛み診療のノウハウを当院で実践すべく、2018年末に当院の疼痛医療センター科長として着任しました。

2019年2月から、院内の緩和ケアチームの一員に加えていただき、がん患者さんの疼痛緩和に関わりながら、2019年4月からは痛みの診療科として、いたみ外来を開設し外来診療を開始しました。国立病院機構では、痛みの診療に特化したセンターの開設は全国でも初めての試みであったこともあり、診療体制が整っていないままでの開始のため、院内や近隣の諸先生にはご紹介などお世話になりながら、この4年間でようやく診療体制が充実してまいりました。

これまでの取り組みをご紹介させていただきます。初診時には、痛み以外の多面的評価を iPadを用いた電子問診票での取得、紹介時に器質的病態の精査などを行い、治療におきましては、薬物治療の見直し、透視下やエコーガイド下の各種の神経ブロック(必要に応じてパルス高周波法や高周波熱凝固療法の実施)、認知行動療法の要素を取り入れた運動療法などを実

施できる体制を整えました。長引く痛みを有している方々は、身体面だけでなく心理社会的問題を抱えていることがあるため、治療に難渋する場合には、関係診療科や治療に携わる医療従事者と院内痛み診療カンファレンスで治療方針の見直しや情報共有を行うようにしております。このような患者さんは、当院だけでは対応困難なこともありますので、県内外にかかわらず、患者さんに適した連携医療機関への相談や紹介を行うことも増えてまいりました。さらに痛みの入院診療では、検査・教育・運動療法などの短期入院や、必要に応じて低侵襲手術も実施しております。特に、脊椎脊髄外科専門医としての知識や技術を生かして、難治性神経障害性疼痛への脊髄刺激療法や硬膜外腔癒着剥離術、脊椎圧迫骨折後の癒合不全への経皮的椎体形成術などに注力しております。また、院外活動としまして、赴任当時から厚生労働省の慢性疼痛診療モデル事業におきまして、医療者向けの講演会や研修会を企画・開催しておりますので、ご都合がよろしければ是非ご参加ください。

痛みの専門外来日は、火曜日、木曜日ですが、状況に応じて柔軟に対応させていただきます。長引く痛み、また、脊椎脊髄疾患、骨軟部腫瘍や骨転移でお困りの患者さんがいらっしゃるようでしたら是非ご相談いただければ幸甚に存じます。今後ともご助言お力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。